



ADRC Highlights

Vol.158

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

16 March 2007

➤ グルジアで開催の“アルバトロス 2007”会議に ADRC が参加

グルジア政府内務省主催の「アルバトロス 2007」会議が、米国陸軍工兵団の協力の下、2007年2月12-15日、グルジアの港湾都市バトゥーミで開催され、アジア防災センター(ADRC)は、同国政府からの招待を受けて参加しました。

この会議は、黒海周辺に位置する諸国間の災害対応について協力・協調体制を推し進めるといふ、米国主導の「黒海イニシアティブ」の一環として開催されたもので、期間中は、同イニシアティブのメンバー国(ブルガリア、グルジア、モルドバ、ルーマニア、トルコ、ウクライナ)やオブザーバー(アルメニア、アゼルバイジャン、クロアチアのオブザーバー国、米軍関連団体及び UN/OCHA、欧州大西洋災害対応調整センター、化学兵器禁止機構など)から約80名の参加がありました。

会議で取り上げられた議題の一つに、コンピューターを使った緊急対応の図上演習があり、ここでは、バトゥーミ港での石油パイプラインの爆発事故や列車爆破事件による有毒物質飛散など想定されるシナリオのもとで議論が交わされました。各参加者は、国内や近隣国間の既存の災害対応方針に基づいて、どのように具体的な活動を進めるべきかを考察・分析・評価を行いました。



当センター管理部長の長野からは、最近の活動内容について発表を行ったところ、とりわけ防災教育やコミュニティ防災強化活動、宇宙航空研究開発機構と進めている災害時の人工衛星データ提供事業(センチネル・アジア)について、高い関心が寄せられました。

ADRCでは、今後アセアン諸国や南アジア地域協力連合との協力事業を進めようとしています。西はトルコ、東はパプアニューギニアまでとアジア地域が広範囲に跨ることを考えますと、こうした小地域間協力の促進も今後の活動における一つの課題と認識しています。グルジア政府からはADRCメンバー国入りについて高い関心が寄せられています。この件についてのお問い合わせは、長野(nagano@adrc.or.jp)までお願いいたします。

➤ ADRC 客員研究員レポート □ アルン・ピンタ(タイ)

今年1月より半年間、ADRCの客員研究員として在籍しておりますアルン・ピンタと申します。私は、タイの国の防災機関である防災局(DDPM)の所属しており、今回そこから派遣されました。防災局での私の主な職務は、ASEAN 防災委員会の

下での地域プログラムや活動の策定や調整などを行うことでした。また私自身、同局に設置されているコミュニティレベルの防災チームのメンバーでもあり、ここでは指導官として、災害の起こりやすい地域にあるコミュニティの意識啓発を促し、災害対応能力を向上させる役割を担っていました。

私とADRCとの関わりは今回が初めてではなく、2004年12月26日のインド洋津波直後の被害地調査や2006年初めに行われた「学校防災教育」プロジェクトへの参加など、過去にもいろいろな場面でADRCのスタッフと交流がありました。

さて、タイの防災情報について紹介します。東南アジアに位置し主要なASEANメンバー国であるタイは、熱帯性気候に属しており、モンスーンの影響を受けます。5月中旬から9月にかけては、温暖で雨を伴ったモンスーンが南西方面からやって来ます。その一方で11月から3月中旬までは、北東方面から乾燥して涼しいモンスーンがやって来ます。タイでは、他の災害多発国と同様、自然災害と人的な要因による災害の両方に繰り返し見舞われています。近年起こった最も大きな災害はインド洋津波で、南部の州に住む8千人以上の命が奪われました。この津波災害は一度で史上最大数の命を奪った災害となりましたが、タイでは洪水と干ばつが頻繁に発生する災害となっており、こうした水害は常に国の経済・社会的発展に深刻な影響を与えています。

タイにおける防災政策は、防衛省の下に航空防衛を扱う部局が設立された1934年から始まりましたが、現在の方針は1979年3月22日に制定された国民防衛法令を基本にしています。この法令により国家市民防衛委員会(NCDC)が制定され、国全体の防災を進める上で重要な役割を果たしています。この法令によると、私が所属しているDDPMはNCDCの事務局として、実務をつかさどっているほか、防災関連の国家機関、民間セクター、専門家、ボランティアを統合する機関ともなっています。

タイの防災体制は一見、長い歴史があるように思えますが、実は、DDPMが設立され、防災を国策の最優先事項の一つとみなし始めたのはようやく2002年10月になってからのことです。2004年のインド洋津波は、災害の影響を軽減するため、元来の防災システムを迅速に見直し改善するための大きな契機となりました。このようにして、タイは以前よりも災害に強い国になろうとしています。

ADRC滞在の6ヶ月間、私は、(1)タイの過去の災害、(2)タイと日本における州・県レベルでの地震防災に関する比較調査、について集中的に研究しようと思っています。さらに、他のADRCのメンバー国における防災についても学びたいと思います。ADRC客員研究員としての研究・調査ならびに日本など他の国の防災優良事例を通じて、帰国後は、タイの防災能力向上に貢献したいと考えています。



ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行： Asian Disaster Reduction Center (アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 ひと未来館5F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(262)5540 FAX: 078(262)5546

誌代・送料： 無料 / 毎月2回発行(予定)